

新医療センターに関する近況報告会

2025年11月2日

奥州市

健康こども部 新医療センター建設準備室・医療局 経営管理部

はじめに

新医療センターの整備は、2040年問題や総合水沢病院の老朽化等を背景に、時代に即した規模へのダウンサイジングと新たな医療ニーズへの対応を図るものです。

特に、今後の超高齢化社会を見据え、市民が安心できる地域医療体制の確立や、住み慣れた地域で暮らしていける地域包括ケアシステムの推進が、その大きな目標となります。

本日は、この新たな施設に関する経緯や近況などを報告するものです。

1 地域包括ケアの充実を目指して

2 これまでの経緯と計画の決定

3 新医療センターに関する近況

(1) 2040年問題への対応

- ◆ 2040年問題とは、日本が**超高齢化社会**に直面して生じる**様々な社会問題の総称**。
- ◆ 2040年代には、**高齢化率が過去最大の約35%**に達する一方、**労働人口は急減**。
社会保障等の維持が危機的状況に。

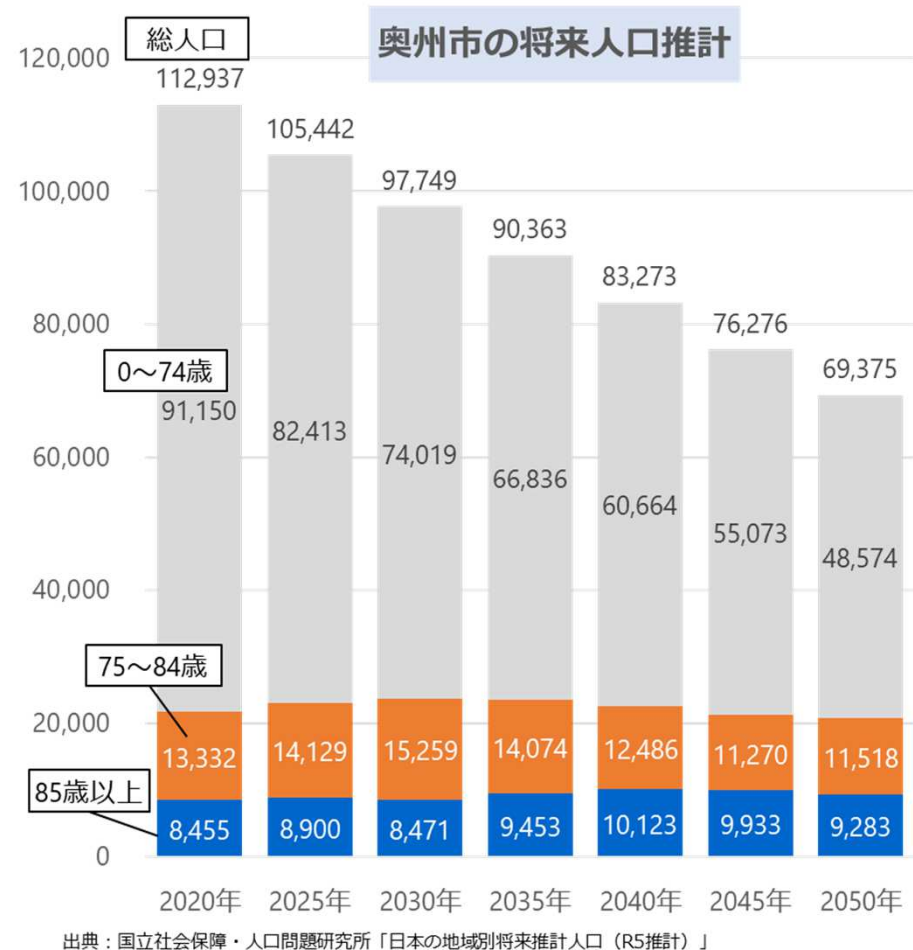
(2) 奥州市の将来人口は

ポイント1：総人口は急激に減少

ポイント2：後期高齢者は横ばい傾向

ポイント3：85歳以上はむしろ増加

【2040年の高齢化率】
全国平均の約35%に比べ
奥州市は約43%



(3) 新たな地域医療構想による連携の推進

◆ 国が進める「新たな地域医療構想」の特徴

○ 主な目的

- ・入院に加え、外来・在宅医療を含む**地域全体の医療提供体制の再構築**

○ 4つの方向性

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| ① 高齢者救急への対応 | 早期に在宅などへ戻せるよう、入院初期からのリハビリ等を実施。 |
| ② 在宅医療の体制づくり | 家で最期まで暮らせる24時間対応可能な在宅ケア体制を確立。 |
| ③ 医療の質向上と人材確保 | 質の高い医療サービスを継続できる提供体制の整備と人材の確保。 |
| ④ 地域に必要な医療体制の維持 | 医療DXやタスクシフト等による効率化。限られた人材での医療体制の維持。 |

○ 連携の考え方

従来の構想（2025年目標）

病院単位での機能分化

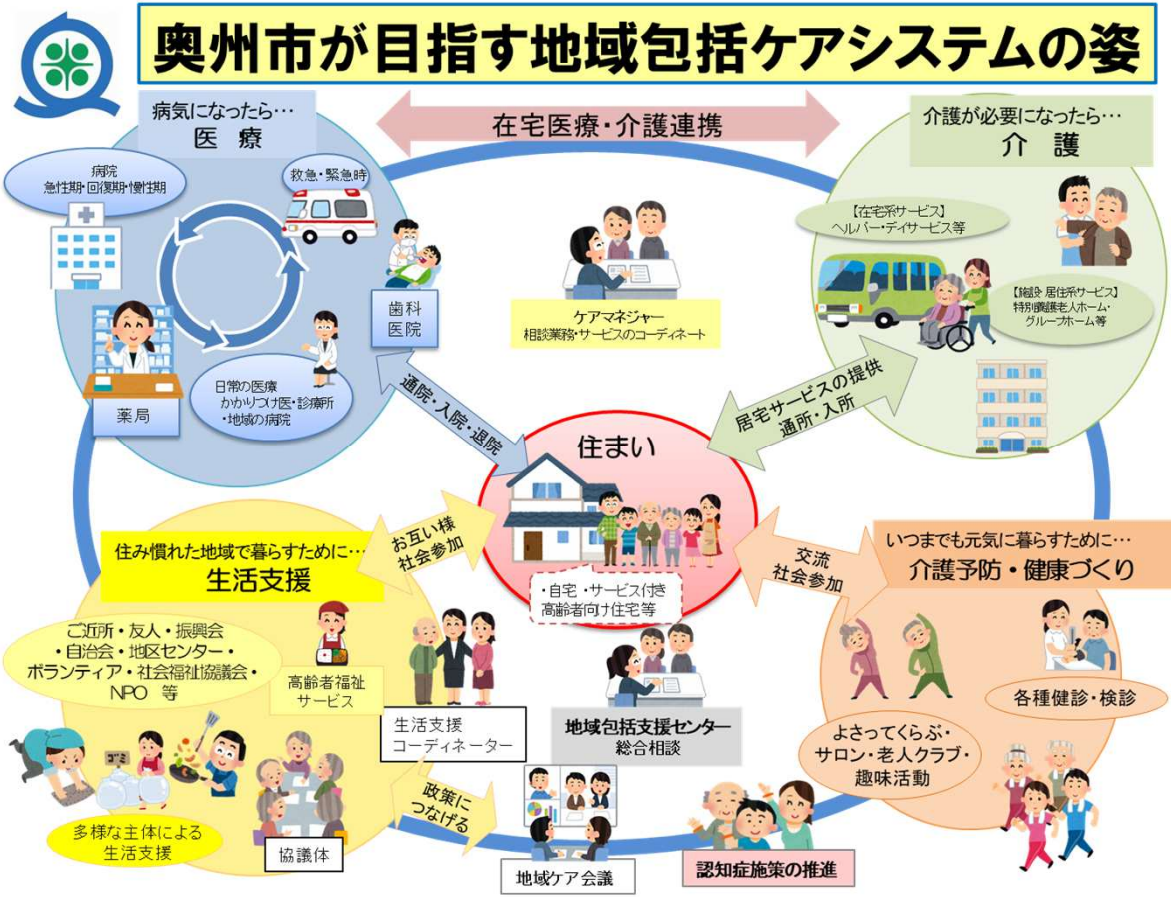


新たな構想（2040年を見据えて）

地域完結型で、医療・介護・在宅を含めた多職種の連携

将来の医療・介護提供体制を構築するためには、地域での連携が特に重要です。

（４）地域包括ケアシステムの推進拠点として



○ 現在の取組

- ・切れ目のない医療介護連携の推進のため、多職種連携による研修会の開催や情報共有ツールの普及促進などを実施。
- ・取組は、高齢者特有の4つの場面（日常の療養支援、入退院時支援、急変時の対応、看取り）を意識して展開。

○ 将来に向けた新たな取組

- ・訪問診療等の体制強化を見据え、今年度、奥州保健所や医療・介護関係者と連携し、二一ズ等の調査を実施する予定。

- ・可能な限り住み慣れた場所で暮らせるよう、医療や介護の多職種連携が重要です。
- ・新医療センターをその推進拠点とし、さらなる地域包括ケアの充実を図ります。

(5) 母子・子育て支援、ヘルスケアの推進拠点として

◆母子・子育て支援の取組

- ・産後ケアの強化（日帰り・宿泊ケアの専用部屋の設置など）
- ・子育て相談の強化
- ・病後児保育の実施
- ・子どもの遊び場の設置
- ・プレコンセプションケアの推進 など
（正しい性知識の普及、関係者の情報共有の場、相談やカウンセリングへの結びつけ等）



◆健康寿命を延ばす取組

- ・栄養（食・口腔）、運動、社会参加の3つの柱による高齢者のフレイル（虚弱）の予防
- ・デジタル活用による受診勧奨など健診事業の強化
- ・健康相談、健康教室、居場所づくりなどの健康増進事業
- ・口腔健診や講座など口腔ケアの推進
- ・人間ドックによる健康チェックなど予防医療の充実 など

新医療センターは、地域全体の健康を支え、まちを元気にする施設を目指します。

- 1 地域包括ケアの充実を目指して
- 2 これまでの経緯と計画の決定**
- 3 新医療センターに関する近況

(1) 基本計画の決定に至る主な経緯 (令和6年度以降)

令和6年9月	市民説明会で基本計画中間案を説明 ・ 5会場6回、参加者延べ 352人
令和7年2月	新医療センターに関するシンポジウム ・ 来場者 294名
4月	市民説明会で中間案の修正内容を説明 ・ 5会場6回、参加者延べ 237人
5月	基本計画に係るパブリックコメント ・ 5/2～6/2 実施、意見：37人から103件
6月	請願4件を常任委員会で審査 ・ 早期実現を求める1件は採択、見直しを求める3件は不採択 整備基本計画を機関決定 (6/26) 、 6月議会で基本設計等の関連予算可決

(2) 決定した計画の主なポイント

- ① 建物面積は、病院 7,600㎡程度（総合水沢病院の約半分）、コミュニティ施設 2,660㎡程度。
- ② 整備場所は、水沢公園陸上競技場。
- ③ 概算事業費は109.7億円、市民の実質将来負担は34.2億円（1年あたり1.1億円）の見込み。
- ④ 診療科は、内科、総合診療科、外科、小児科、整形外科を必須とし、その他も可能な限り検討。
- ⑤ 病床数は、一般病床80床に縮小（総合水沢病院は現在135床）※感染症4床は現状維持
- ⑥ 資金収支は、地域包括医療病棟への転換等で開業後10年間は資金維持が可能な見通し。
- ⑦ コミュニティ施設には、産後ケア専用室や子どもの遊び場などを設置。



(3) 計画決定に当たっての基本的考え方

- 市民説明会等では、建設そのものへの明確な反対意見は少なかったものの、**市の説明内容に対する疑問や不安の声を多くいただいています。**
- **他方、新病院の建設まで5年**はかかりますし、**2040年問題への対応や総合水沢病院の老朽化・耐震強化は待ったなしの課題**です。
- これらの事情を踏まえ、**現在出されている疑問点や不安点は、次のステージである基本設計の段階でさらに検証することとし、先ずは、整備事業を前進**させます。

直近の情報については、今後も定期的に報告してまいります。

- 1 地域包括ケアの充実を目指して
- 2 これまでの経緯と計画の決定
- 3 新医療センターに関する近況**

（１）医師確保の取組

【新医療センターへの移行を見据えた取組】

○ 安定的な医師確保を指摘する意見

- ・ 市民説明会等では、「持続的な病院運営のためには、安定的かつ計画的な医師確保が必要である」との意見をいただいているところ。

○ 総合水沢病院における常勤医師の確保の現状

- ・ 令和６年度末の医師の退職者は、例年より多い４名。
- ・ 令和７年４月には整形外科医１名、小児科医１名が着任。さらに、10月からは、新たに内科医（専門は総合診療）１名が着任。（常勤医は現在11名）
- ・ 安定的かつ確実な医師確保は難しいものの、総合水沢病院では、毎年度、新たな常勤医師に着任いただいている現状。

【今後の取組の方針】

- ・ 引き続き、岩手医科大学や東北大学、東北医科薬科大学との連携を深め、なるべく安定的な医師の確保を図ります。
- ・ また、県や国保連と連携し、安定的な奨学金養成医師の確保に取り組みます。

(2) 市立医療施設の経営改善の取組

○ 令和6年度の決算状況

- ・ 医業収入は患者数やリハビリ件数の増により増収するも、物価高騰や人件費上昇で経費も増加。結果的に医療局全体で約6億円の赤字。

○ 令和7年度状況

- ・ 今年度も人件費上昇は確実で、物価高騰による経費増も避けられない状況。診療報酬にはこれら経費増が反映されておらず、苦しい病院経営は全国的課題。
- ・ このような中、総合水沢病院では、整形外科医着任の影響等で、入院患者数、収入額とも増加し、**収入面では改善が見られる状況。**
- ・ そのほか、同院では、言語聴覚士を含む多職種連携の推進、無痛MRI乳がん検診の拡充、健康意識向上の出前講座など、経営改善と質の向上に向けて取組中。
- ・ また、今年度、外部の医療関係者の意見を頂きながら、**市立医療施設の医療機能や規模の最適化について検討を進めている**ところ。

※ 委員からは診療機能の分担や集約、医療機器の共用化等について具体の提言を頂いており、今後それを基に検討予定。

【今後の取組の方針】

- ・ 経営強化プランの評価点検を行いながら、引き続き経営の改善、運営体制の最適化に取り組めます。

(3) 今後のスケジュール

◆ 全体の大まかなスケジュール

令和8年度・・・・・・・・基本設計

令和9年度・・・・・・・・実施設計

令和10～11年度・・建設工事

令和12年度・・・・・・・・移転し、秋頃に開院

◆ 当面のスケジュール（令和7年度）

来年度にかけて、先ずは基本設計の作業を進めます。

業 務	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本設計	発注準備			設計者選定			設計作業（～令和9年1月）		
その他業務				地積測量、境界確認等の測量業務			開発行為申請に向けた測量設計業務（～令和8年8月）		
				地質調査（ボーリング調査）業務					

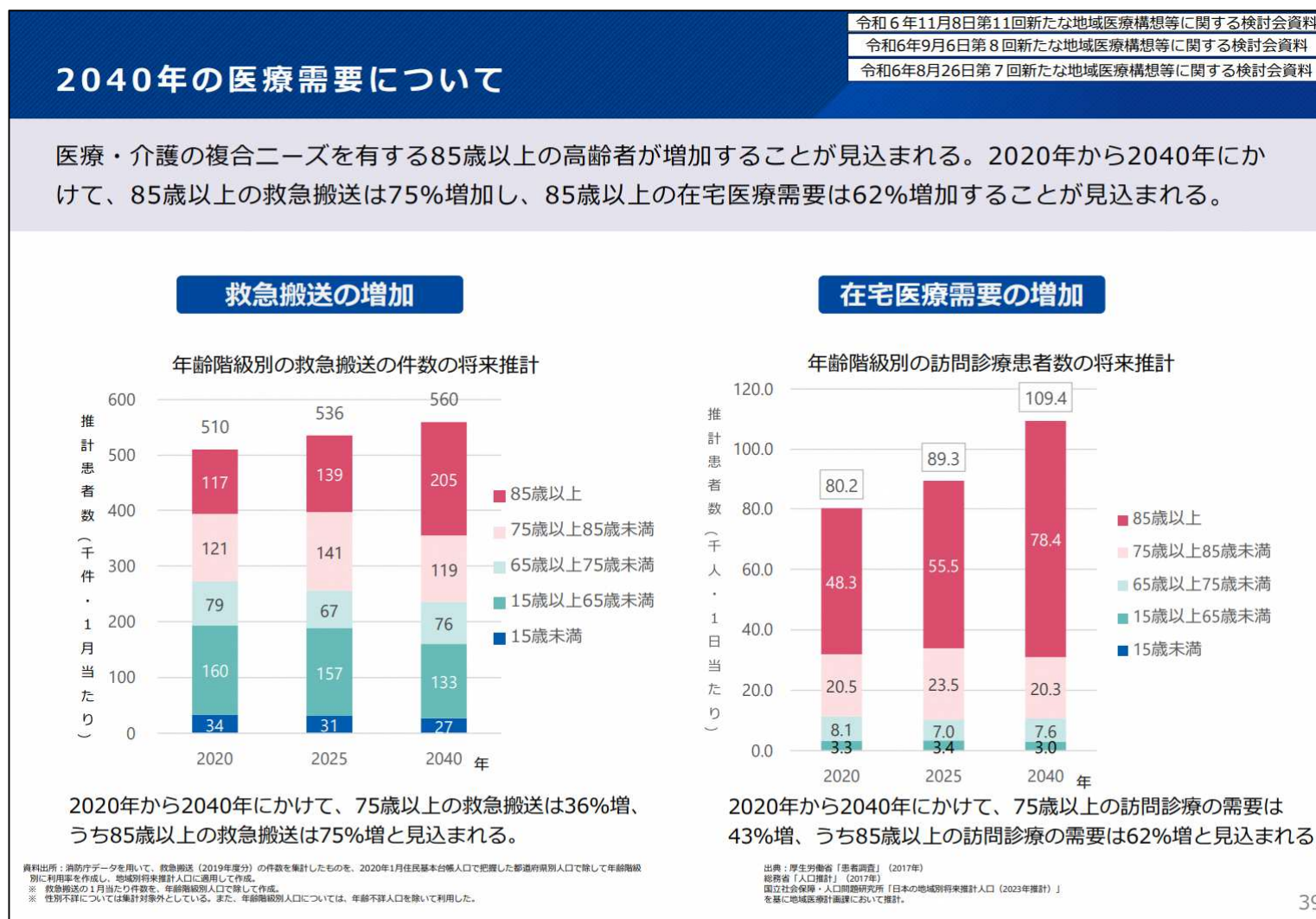
おわりに

今年6月に基本計画を決定後、現在は、基本設計業務の発注事務を進めるとともに、新医療センターの拠点機能に係る具体化の内部検討を進めています。

今後も、新医療センターのコンセプトへの理解が深まるよう、また、医師確保や安定的な運営への不安が払拭されるよう、所要の説明に意を尽くしてまいります。

【参考1】2040年を見据えた医療需要の変化

- ◆ 医療・介護の複合ニーズを有する85歳以上の高齢者は今後も増加。
- ◆ 2040年に向け、救急搬送の増加や在宅医療の需要の増加が見込まれる。

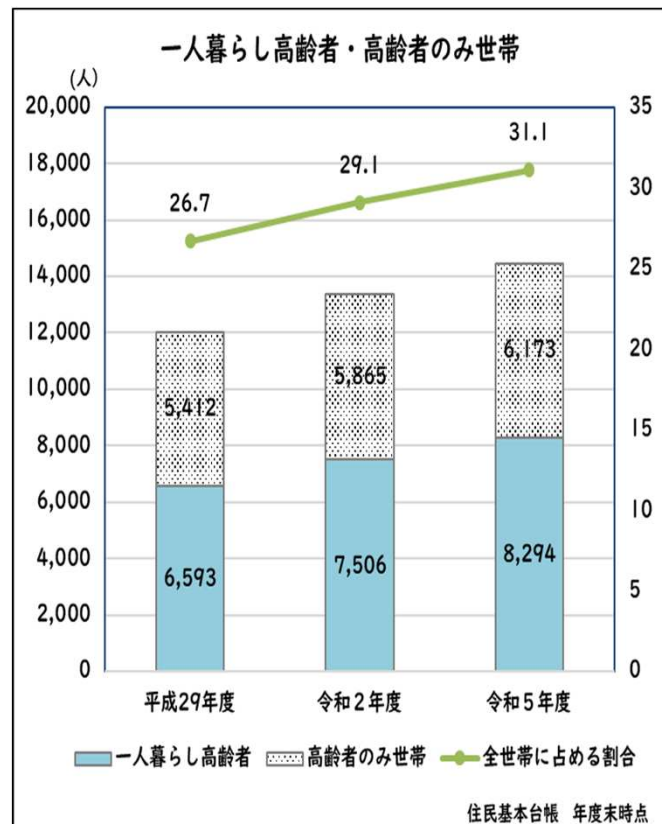


【参考2】高齢者の世帯状況の変化

◆ 一人暮らしとなる高齢者が、今後も増加する見込み。

【奥州市の状況】 H29年～R5年

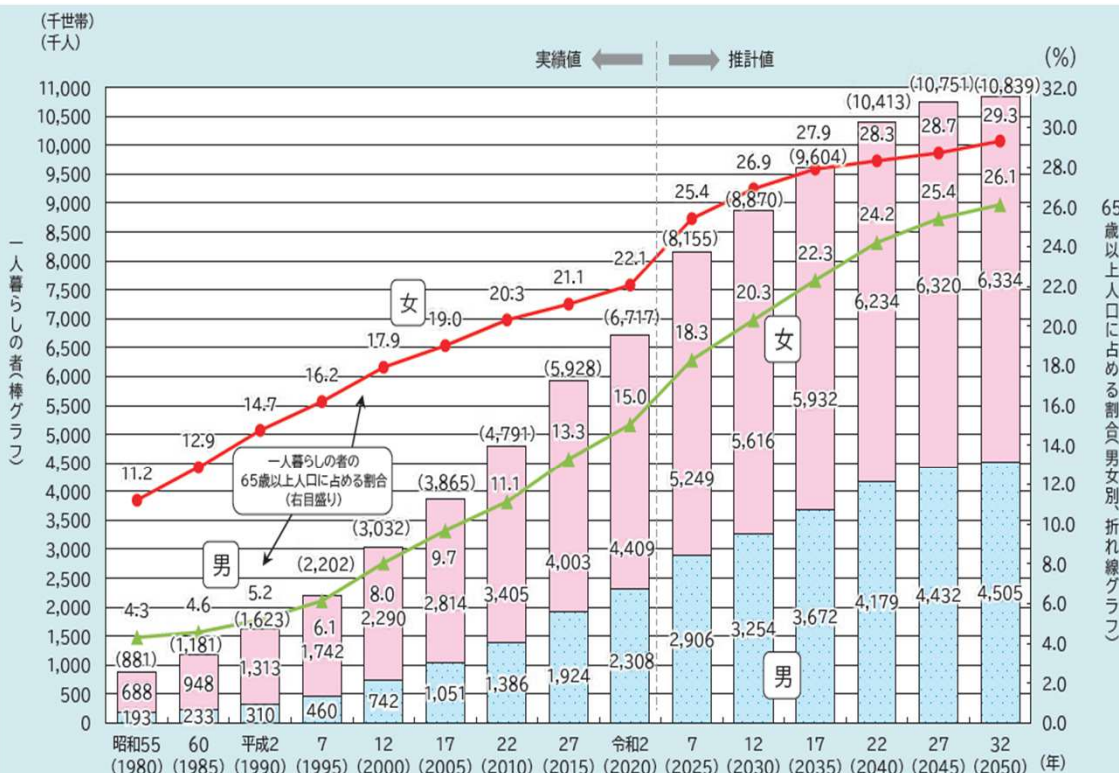
全世帯に占める65歳以上の「一人暮らしの高齢者」と「高齢者のみの世帯」は増加傾向。



※資料：奥州市住民基本台帳より（年度末時点）

【全国の65歳以上の一人暮らしの将来推計】～2050年

65歳以上の一人暮らしの高齢者は、増加傾向にあり今後も増加する見込み。



資料：令和2年までは総務省「国勢調査」による人数、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（令和6（2024）年推計）による世帯数
 (注1)「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」又は「一般世帯（1人）」のことを指す。
 (注2)棒グラフ上の（ ）内は65歳以上の一人暮らしの者の男女計
 (注3)四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

医療はもちろんのこと、介護や生活を支える仕組みが必要。また、健康寿命の延伸も重要。

【参考3】市が目指すコミュニティホスピタルの理念

「病気」を診る医療だけではなく、
「患者」を診て「社会」を診て「治し、支える医療」への
転換を図ります。



患者さんには

- ・ 総合診療を軸に、本来必要な総合的な医療とケアをワンストップで提供。

医療者には

- ・ 本来やるべき仕事に集中でき、成長しながらいきいきと働ける環境の創出。

まちのひとには

- ・ 病気の前も後も「ここがあるから安心」と思える拠り所を提供。

新医療センターでは「治し、支える医療」の提供を目指します。